

がく

# 楽!

サイエンス

1 2004



見上げてごらん  
夜の火星をの巻

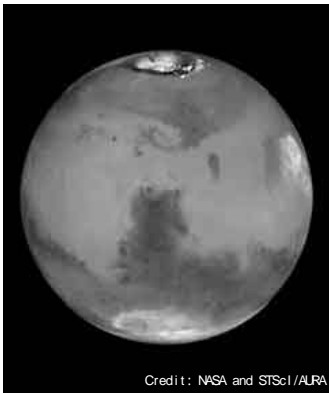
蒲郡情報ネットワークセンター  
生命の海科学館

66 1717

夏この時期、夕涼みや夜の散歩のときに夜空を見上げてみると、夜の8時ころには西の地平に沈んでゆく火星が見られます。

はるか昔から、火星は人類のあこがれと恐れの対象でした。夜空に赤く輝く火星を、人々は戦の神になぞらえ、また災いの星として恐れ敬いました。マーズ (Mars) という英語の呼び名は、ローマ神話の軍神マルス (Mars) からきています。また、3月のことを英語

人類のあこがれ、  
はるかなる火星



夜空に赤く輝く火星

でマーチ (Mars) と呼ぶのも、マルスにちなむといわれています。

近代に入り、火星が地球と同じ太陽の周りをまわる惑星のひとつであることが広く知られるようになってからも、火星は人々や、とりわけ科学者を魅了し続けました。

なぜ、こんなに火星が人々をひきつけるのか？それは、火星には地球外の生命体が存在するかもしれない、と考えられてきたこと、深い関わりがあると思われれます。

今年1月、NASAの火星無人探査車「スピリット」と「オポチュニティー」が、無事火星に着陸を果たし、火星探査の旅に出発しました。



ちいさな「双子の姉妹」、スピリットとオポチュニティー。彼女たちは頼もしい地質学者でもあります。

NASAでは、スピリットとオポチュニティーを「双子の姉妹」と呼び、自分たちの仲間として親しんでいます。

彼女らの重要な任務の一つは、火星に「水」の痕跡を探ることです。火星に水が存在した時代があったかどうかは、火星に生命が存在したか否かの議論に密接に関わる、重要な問題だからです。

## 火星は水の惑星だった

渚には、おだやかな波がうちよせ、水底には細かい砂が小さな波のまようを描いていた

はるか昔の火星は、私たちが想像していたより、もっと地球によく似た惑星だったのかもしれない。

スピリットとオポチュニティー姉妹は、地球で待つ私たちに、大きな成果をもたらしました。オポチュニティーが降り立った場所は、昔、塩水に満ちた海の渚であったようだと、NASAの研究チームが発表したのです。根拠となったのは、探査車による火星の岩石の観察と分析の結果でした。

オポチュニティーは着陸地点の岩を分析し、鉄ミョウバン石という鉱物を発見しました。この鉱物は、地球では水中でできた石が、造られた後、長い間水にさらされて変質した石に見られるものです。

そのほか、岩石の組織や構造などにも、水の存在を示すと考えられるものがいくつも発見されました。

もっとも決定的な証拠は、流れる水があったことを示す斜交層理（しゃこうそうり）と呼ばれる地